

2面 JSU-KSSU交流40周年記念式典
3面 第六十一大林丸竣工披露／
石巻地区沖合底曳網漁船組合員大会
(東北)

船員しんぶん

◆ホームページアドレス <http://www.jsu.or.jp> ◆Eメールアドレス kaiin@jsu.or.jp
全日本海員組合発行第3063号(昭和25年8月24日第三種郵便物認可)

2024年(令和6年)
9月5日
本紙は毎月5・15・25日発行
〒104-0053 東京都中央区
晴海4丁目7番28号
ホテルマリナーズコート東京内
全日本海員組合本部
発行人 齋藤 洋
TEL 03-5410-8329
FAX 03-5410-8337
定価1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)



8月4日、澄み渡った青空のもと、焼津港から住吉漁業株式会社グループ会社である南洋水産株式会社の新造海外まき網漁船「第七岬洋丸」(760トン)が大漁旗をなびかせ、中西部太平洋へ向け初出航した。

既存船「第十五岬洋丸」の代替新造船として就航した本船は、760トンの船体を浮力強化して安全性を向上した。また、居住空間および作業スペースの拡大、洋上インターネット接続環境の拡充など、居住性・労働環境・作業環境の改善を図ることで、後継者確保育成にも力を入れた。

海外まき網漁船は、日本の港を出港してから中西部太平洋の漁場において、ソナー・魚群探知機の漁労機器を利用した魚群探索、双眼鏡やヘリコプターによる目視などの魚群探索で魚群を発見し、複数隻の搭載船とのチームワークで魚群を巻き込む漁法で、主にカツオを対象魚種として操業が行われる。

出港に際し、南洋水産株式会社代表取締役社長は「最新鋭の設備で、優秀な船員が集まった新船で、世界の船に負けない漁獲を目指してください」と安全航海と大漁を願うエールを送り、乗組員の家族や関係者など多くの人々に見守られながら、本船は出航した。

新造船 第七岬洋丸が出航

南洋水産株式会社

全国発信記事

三崎支部
= 発信



最新鋭の設備と優秀な船員の
チームワークで安全航海

地区大会 日程

第85回 定期全国大会に向けて地区大会を開催 現場組合員の声を大会に届けよう

地区大会	日 時	場 所 (連絡先)	地区大会	日 時	場 所 (連絡先)
苫小牧地区	9月30日 17時00分～	北海道地方支部 ☎0144-33-3141	神戸地区	9月27日 13時30分～	関西地方支部 ☎078-331-7541
室蘭地区	9月25日 17時00分～	室ガス文化センター ☎0143-22-3156	大阪地区	9月27日 13時30分～	大阪支部 ☎06-6612-4300
小樽地区	9月24日 17時00分～	小樽事務所 ☎0134-23-7411	名古屋地区	9月25日 14時00分～	名古屋支部 ☎052-651-5495
稚内地区	9月25日 20時00分～	道北支部 ☎0162-23-3021	北陸地区	9月24日 10時00分～	北陸支部 ☎0776-81-3427
紋別地区	9月24日 13時30分～	紋別漁業協同組合 ☎0162-23-3021	広島地区	9月19日 13時30分～	中・四国地方支部 ☎082-251-7358
釧路地区	9月25日 15時00分～	道東支部 ☎0154-24-0174	尾道地区	9月25日 10時00分～	尾道支部 ☎0848-37-8163
根室地区	9月26日 13時00分～	根室事務所 ☎0153-24-8811	愛媛地区	9月18日 10時30分～	愛媛支部 ☎0898-32-6131
道南地区	9月26日 17時00分～	道南支部 ☎0138-22-8127	高松地区	9月25日 10時00分～	高松港旅客ターミナルビル ☎087-851-4622
石巻・塩釜	9月26日 13時00分～	東北地方支部 ☎0225-23-1424	北九州・下関	9月26日 15時00分～	九州関門地方支部 ☎093-331-3600
八戸地区	9月26日 14時00分～	八戸支部 ☎0178-33-3241	福岡地区	9月25日 14時00分～	福岡事務所 ☎092-761-5596
気仙沼・岩手	9月26日 13時30分～	気仙沼支部 ☎0226-22-1509	大分地区	9月25日 9時30分～	佐賀関市民センター ☎097-575-2557
小名浜地区	9月25日 13時30分～	小名浜支部 ☎0246-54-2191	長崎地区	9月25日 11時00分～	長崎支部 ☎095-823-7251
関東地区	9月27日 10時00分～	関東地方支部 ☎045-451-5580	鹿児島地区	9月26日 15時00分～	鹿児島支部 ☎099-253-6605
新潟地区	9月25日 13時30分～	新潟支部 ☎025-247-3276	那覇地区	9月26日 16時00分～	沖縄支部 ☎098-868-1884
三崎地区	9月26日 14時00分～	三崎支部 ☎046-882-6555	石垣地区	9月25日 19時00分～	石垣市離島ターミナル ☎098-868-1884
清水地区	9月27日 18時00分～	静岡支部 ☎054-352-9136			

JSU-KSSU 交流40周年記念式典

日韓労組交流40周年式典開催

— 現役執行部・執行部OBを交え交流の歴史を振り返る —

OTTE HOTEL BUSAN



キム・フンオ KSSU 初代委員長(左)
平山誠一元中央執行委員(右)

2024年7月27日、JSU-KSSU(韓国特別船員組合)交流40周年記念式典が韓国・釜山において開催され、本組合から松浦満晴組合長、田中伸一組合長代行、池谷義之国際局長ほか国際局職員3人に加え、日韓交流の礎を築



あいさつする
平山誠一元中央執行委員

いた先駆者である平山誠一元中央執行委員(政策局長・国際局長)が式典に参加した。KSSU(Korea Special Seafarers' Union)は1981年2月1日に設立された船舶管理業者の管理船舶に乗り組む外航船員および韓

KSSU-JSU 交流 40周年 記念式



キム・スジョー 第4期研修生(左)
平山誠一元中央執行委員(右)
同氏は、第4期研修生として日韓交流につとめた

一方、韓国側KSSUからは、リー・クワン・チョン委員長(JSU研修経験有)、チョイ・ソン事務局長の他、KSSU職員7人、日韓交流開始の際の委員長であったキム・フンオ氏をはじめとする歴代KSSU委員長4人、JSUでの派遣研修経験者4人、FKSSU(韓国船員組合連盟)から委員長のパク・セリユウ氏(前KSSU委員長、JSU研修経験有)が式典に参列した。

平山誠一氏はJSUとKSSUの関係樹立の段階からJSU執行部を引退されるまで、日韓労組間で生じていたさまざまな労働問題の解決に尽力され、日韓実務者会議の定期開催の創設や人事交流(長期研修制度)の創設などに取り組まれ両国の関係強化に多大な貢献を頂いた功労者でもあり、今でもKSSUをはじめとする韓国友誼組合から同氏との再会を望む声は大きく、2013年に開催された交流30周年記念式典にも招待され熱烈歓迎を受けた経緯がある。

JSUとKSSUの交流については、1983年、日韓共に抱えていた船籍置換や自国籍船海外裸貸渡船船の問題などについてKSSUとの情報交換や諸問題の解決を図るため、平山誠一氏を含む本組合の代表団が韓国を訪問した時から今日に至っている。1983年以降、コロナ禍の間の2020年〜2023年の期間を除き、最低でも年2回程度の実務者会議を行い、情報交換を行うとともに相互の協力体制を構築してきた。



交流式典参加者一同

方から、JSUとKSSUで40年間培った関係を評価するとともに、今後、ますますの友好と堅固な協力関係を維持していきたいとの趣旨であいさつが行われた。

続いて、平山誠一氏にスピーチのバトンが渡され、平山誠一氏からはKSSUとの交流当初からの諸課題への対応や、歴代KSSU委員長・研修生や日韓通訳との文化交流や友情なども披露され、その場を和ませるイベントとなった。

その後、懇親会が行われ、旧知の懐古談も弾ませ和やかな時を過ごしつつ、将来に向けての友好関係の深度化につながった。

先輩OB執行部の献身的な活動や国際交流により受け継がれてきたJSUの国際連帯活動の基盤を今後さらに発展させ、後世に継承すべく活動に邁進していかねばならない。(国際局)



漁船漁業技能実習生

漁船漁業技能実習生へ労働関係法令講習を実施

全国発信記事

鹿児島支部 = 発信

8月13日、日向市漁業協同組合研修室にて、新たに入国したインドネシア人技能実習生12人への労働関係法令講習を開催した。

講習は技能実習生の自己紹介に始まり、鹿児島支部執行部が全日本海員組合の活動について紹介を行った後、安全衛生▽漁船漁業技能実習生に係る労働関係法令▽災害補償▽船内秩序などの説明を行い、ライフジャケットや安全保護員の着用義務について共通認識を図った。

また、日向灘を震源と想定した地震対応や備えなどについて意見を交換し、実習期間中の困ったことや相談ことは海員組合に連絡するよう伝え、病気や怪我をすることのないようにと激励し、講習を終了した。

大会宣言を行う清水誠道東支部長



第55回 船員災害防止北海道大会

全国発信記事

道東支部 = 発信

8月20日、第55回船員災害防止北海道大会が開催され、今年は5年ぶりの釧路開催となり、地元関係事業者、乗組員を中心に45人が出席した。毎年この時期は船員災害防止について、海運業・水産業の関係者が一丸となり、安全と衛生意識を高め、現場での事故・災害を減らす自主的な取り組みで、安全で安定した運航・操業を継続していくため、安全衛生講習会や訪船指導などを行っている。

今回は、船員災害の現状について最近のデータで共通認識を深め、講演「船員のメンタルヘルス確保とハラスメント対策」を学んだ。

大会の結びは、清水誠道東支部長が大会宣言を発表し、満場の拍手で採択され、有意義な大会となった。

新造船「第六十一大林丸」



新造船 第六十一大林丸 / 石巻地区沖合底曳網漁船組合員大会

全国発信記事

東北地方支部 = 発信

支部活動だより

8月20日、宮城県石巻港において、株式会社真高漁業が所有する沖合底曳網漁船「第六十一大林丸」の竣工披露が行われた。

本船は、水産庁の「がんばる漁業復興支援事業」を活用して既存船「第三十二大林丸」の代替船として建造された。竣工披露には来賓として齋藤正美石巻市長が参加するなど、多くの人が参加し、乗組員全員でサポートした。及川義徳漁労長は「漁労長となって長くなるが、後継者育成の必要性を感じている。若者に地場産業の魅力を感じてもらえるよう手本になりたい」との思いを語った。本船は9月1日から操業を開始する。



あいさつする高橋雅幸東北地方支部長



ボウリング大会で記念撮影

同日の午後、沖合底曳網漁船に乗船する組合員を対象に、石巻市内のプレナミヤギで石巻地区ボウリング大会を開催し、組合員22人が参加した。

始球式は組合員家族の茂木永真くんが行い、若い組合員同士の白熱した試合が展開され、大いに盛り上がった。組合員からは、継続した開催を望む声が寄せられるなど好評を博し、多くの笑顔が見られる中、イベントを終了した。

令和6年度石巻地区沖合底曳網漁船組合員大会

7月30日、連日の猛暑が続く中、石巻市水産総合振興センターにおいて「令和6年度石巻地区沖合底曳網漁船組合員大会」を開催した。

議長に山崎暁先任事務職員を選出し、高橋雅幸東北地方支部長は「コロナ禍での各種制限が緩和され、4年ぶりに参加人数を絞らない形で開催した。本大会は、休漁期間という限られた時間を利用して、海員組合の一年間の活動に対する理解を深め、次年度の活動および労働協約改定要求について話し合う大変重要な会議。皆さまからご厚意の多いご意見を賜りたい」とあいさつした。

議事では令和5年度の活動概要を報告、令和6年度水産部門の活動方針(案)について説明し、質疑応答で理解を深めた。最後に、沖合底曳網漁船を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いているが、課題の解決に向け、現場組合員と執行部で一丸となって取り組むことを確認した。

海員スポーツイベント

参加者全員で記念の1枚



海員スポーツイベント

名古屋支部主催 海の日記念ゴルフ大会

全国発信記事

名古屋支部 = 発信

7月11日、名古屋支部主催、第18回海の日記念ゴルフ大会を三重県の白山ウィレックスゴルフコースで開催し、現場組合員をはじめとする海事関係者25人が参加した。

開会式で山原始名古屋支部長は「けがに十分注意し、親睦を深め、ラウンドを楽しんでください」とあいさつした。

参加者全員で記念撮影をしてスタートした大会は、皆が真剣にプレーした結果、優勝は渋谷泰伸さん(瀬戸大橋総合開発)、準優勝は大矢綾さん(グリーン海事)、3位に柳谷一輝さん(コスモ海運)となった。

表彰式終了後のじゃんけん大会で、太平洋フレイリーペアチケットを山本昇太郎さん(四日市曳船)がゲットし、参加者は互いに健闘をたたえ親睦を深めた。



左から岡本裕二中・四国地方支部副支部長、除補修中・四国地方支部長

8月5日、広島市中区の上野学園ホールにおいて「被爆79年連合2024平和ヒロシマ集会」が開催され、1780人が参加した。集会に先立ち、平和への祈りを込め、海員組合からは中・四国地方支部職員一同が折った千羽鶴を、除補修中・四国地方支部長が献納した。開会にあたり、参加者全員により黙祷がささげられた後、主催者を代表して連合の芳野友子会長はいさつで「連合は、若い世代を中心に、戦争の歴史や知識、『語り部』の皆さまの思いを継承するための取り組みを続けてきた。世界に目を向けると、ロシア

はウクライナ侵略における核兵器使用を示唆する発言や、隣国ベラルーシに戦術核を移転するなど、近年、核戦争の危機がかつてないほどに迫っている。このような中、昨年12月開催の核兵器禁止条約第2回締約国会議では、核兵器のない世界の実現をめざす政治宣言が採択されたが、日本政府は第1回会議に続いて参加を見送った。日本政府には、唯一の戦争被爆国として、核兵器のない世界の実現に向け、核軍縮と核不拡散の強化に向けた外交努力を粘り強く続けるよう求めていく。核兵器廃絶は決して核兵器保有国や被爆地だけの課題ではなく、今を生きるすべての人々が乗り越えるべき課題である。今回の平和行動を通じて、被爆地広島核兵器廃絶に対する強い思いを、職場や地域を持ち帰り、運動として展開していただくことを期待する」と核兵器廃絶と恒久平和の実現に向け、取り組みを進めていく決意を示した。次に連合広島の大野真人会長が「平和を願う気持ちは国民の共通認識。ただ、それを行動に移せる者は多くない。今こそ、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現に向けて、力を結集しよう」と力強くあいさつした。続いて広島県原爆被害者団体協議会の箕谷智之理事長からの被爆体験証言と、高校生平和大使からのメッセージが語られた。式典の最後に連合広島の大野会長から、次の平和行動開催地である連合長崎・高藤義弘会長に「ピースフラッグ」がリレーされ閉会した。

連合2024 平和ヒロシマ集会

全国発信記事
中・四国地方支部 = 発信



芳野友子連合会長のあいさつ

語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう

支部活動だより 「海の日」航海安全・大漁祈願祭／連合2024平和ナガサキ集会

全国発信記事
長崎支部 = 発信



長崎港「海の日」航海安全・大漁祈願祭物故船員慰霊祭
肌を焦がす夏空のもと、長崎市街を眼下に見る鎮西大社諏訪神社で7月10日、長崎港「海の日」航海安全・大漁祈願祭と物故船員慰霊祭が開催され、長崎県内の海事関係者が参加した。諏訪神社は、漁業や航海安



物故船員慰霊祭



鎮西大社諏訪神社

全を司る「諏訪大神」を奉っている。長崎市でも総氏神様として広く市民から信仰されており、毎年10月には、国指定の重要無形民俗文化財に指定されている「長崎くんち奉納踊」の舞台となり、県内外から多くの観光客が訪れる。祈願祭は宮司による祈禱から始まり、巫女の神楽が奉納され、参列者が玉串を奉奠し、航海の安全と大漁、海運・水産産業のさらなる発展を祈願した。続いて物故船員慰霊祭を行い、沖で亡くなった仲間たちの冥福を祈り、海難事故の撲滅を強く願った。

連合2024 平和ナガサキ集会
8月8日、長崎県立総合体育館で「被爆79年連合2024平和ナガサキ集会」が開催された。開会に先立ち、高藤義弘連合長崎会長から「北朝鮮の核兵器開発・ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続くなか、わたしたちは核保有国に対し、核兵器廃絶の思いを伝え、長崎と広島で起きた核兵器の恐ろしさを後世に残していかなければならない」とのあいさつがあり、続いて主催者を代表して、芳野友子連合会長からあいさつが述べられた。式典では悲惨な被爆体験が語られ、このような悲劇を起こす核兵器が存在している以上、世界が平和になるはずがない。核兵器の恐ろしさと核兵器廃絶の必要性を世界に伝え続けたいと力強く訴えた。また「ナガサキ・ユース代表団」と「高校生平和大使」から平和活動の紹介が行われ、閉会した。